

# 国語 授業づくり講座 in 香南市立野市中学校

授業をアップデート！  
生きて働く学びを創る！

令和4年11月発行  
東部教育事務所

東部管内の  
講座情報

https://www.pref.akita.jp/education/kyouza/

〒990-0001 香南市野市  
香南市立野市中学校

## 提案授業

**単元名** 学校生活における自分たちの服装について、立場を明確にして意見文を書こう  
~根拠の適切さを検討する~

### 単元の目標

- ・情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができる。 [知識及び技能] (2)イ
- ・根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果をj考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等] B(1)ウ
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を生活に役立て、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

**言語活動** 学校生活における自分たちの服装について、立場を明確にして意見文を書く。  
~根拠の適切さを検討して自分の考えを書く~ (関連: [思考力、判断力、表現力等] B(2)ア)

**学習材** 根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く 『国語2』 光村図書

## 教材研究会① 6月15日

題材の設定	情報の収集、内容の検討	考えの形成、記述	共有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見の根拠となる情報を集める力</li> <li>・意見と根拠(根拠)を適切に結びつける力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5 自分の意見の根拠となる情報を集める。(ワークシート)</li> <li>6 自分の意見と他の生徒の意見との関係や意見と根拠をどうつなぐかを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7 前持込でまとめたワークシートの中から、文章を書く情報を考え、選択する。自分の意見に対する根拠等も整理しながら構成メモを作成する。</li> <li>8 読み手に伝わりやすい文章の構成や根拠について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>18 初めに考えたことを基に再読する。</li> <li>19 1時間目に書いた文章と再読した文章を読み比べ、自分の文章のいい点や改善点を挙げる。</li> <li>20 単元の振り返りを行う。</li> </ul>

**協議の視点:** 生徒が、自分の考えの根拠の適切さを考えながら学習を進めることができる単元や本時となっているか。

### 言語活動について

- ・皆が同じ題材だと意見や反論も同じようなものになり、思考が広がらないのではないかな。様々な題材を扱ってみたいはどうか。
- ・新聞への投書について、年齢や考えが様々である読者に自分の考えが伝わる意見文を書くためには、子供が自分事として題材を捉え、相手意識、目的意識を持つ必要がある。

### 単元、本時について

- ・根拠の適切さをどのように検討させるのか。意見と根拠をつなぐ適当な解釈を考えさせる工夫や手立てが必要ではないか。
- ・「考えの形成、記述」の際、「情報の収集、内容の検討」で収集した)根拠の不十分さを補うため、再度情報収集の時間を設定してはどうか。学習に対する粘り強さにつながるのではないかな。
- ・本時では意見文がほぼ出来上がっているのに、助言が出にくいのではないかな。

## 講師講話より

### ★「自力」で文章を書くことができる資質・能力

[書くこと]において、まずは、生徒が「書いてよかった。」と思えなくてははいけない。「私の、僕の意見文なんだ。」という実感がもてるよう、教員は授業の流れの中で考えていく必要がある。[書くこと]の学習過程のメタ認知(書くことの見直し)を考えていかなければならない。スモールステップ(教員の細かな指示等)での進行、全ての生徒へのモデル文の提示では、同じような内容や同じような表現の工夫になってしまい、共有する意味も薄れてしまう。 十文字学園女子大学 富山 哲也 教授

### ★「根拠の適切さ」について指導する際の3つのポイント

- ①根拠の信頼性ということについて生徒たちにしっかりと意識させること。
  - ・意見と根拠がそれぞれどういうものかしっかりと認識させる。引用、出典等から情報の確かさを認識させる。
  - ・「情報の扱い方に関する事項」を「知識及び技能」として習得させるとともに領域においても活用させる。
- ②根拠と意見をどのようにつなぐのかについて生徒たちにしっかりと吟味させること。
  - ・根拠と意見をつなぐ理由付けは何なのか、その理由付けでよいのかを考えさせたり話し合わせたりし、共有したことも踏まえつつ自分なりに判断させる。
- ③相手意識、目的意識と根拠との関係を考えさせること。
  - ・根拠や理由付けが読み手にとって分かりやすいものになっているかについて、複数考えた根拠や理由付けから読み手に応じて選択させるようにすると根拠の適切さや文章のバリエーションの広がりにもつながる。

### ★「推敲」と「共有」について

「推敲」と「共有」の順番が気になる。「共有」させてから「推敲」させていないか? 「推敲」は自分の文章を改めて読み直し、客観視し、間違いを正したりよりよい表現にしたりしていく行為なので、互いの文章を読み合った後で「推敲」すると、客観的に読むという肝心な力が身に付かない。

## 授業研究会① 9月30日

題材の設定	情報の収集、内容の検討	考えの形成、記述	共有
<ul style="list-style-type: none"> <li>・意見の根拠となる情報を集める力</li> <li>・意見と根拠(根拠)を適切に結びつける力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>6 自分の意見の根拠となる情報を集める。(ワークシート)</li> <li>7 文章を書く情報を整理する。</li> <li>8 読み手に伝わりやすい文章の構成や根拠について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9 意見と根拠のつながりについて考える。(個人ワークシート)</li> <li>10 根拠の適切さについて考えたり助言しあったりする。(グループワークシート)</li> <li>11 意見と根拠について再度検討する。(個人ワークシート)</li> <li>12 振り返りを行う。無言で伝わるように、より適切な根拠とするために考えたことについて記述する。</li> <li>13 振り返りを行う。(ワークシート)</li> <li>14 振り返りを行う。無言で伝わるように、より適切な根拠とするために考えたことについて記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>13 読み手に伝わりやすい文章の構成や根拠について考え、下書きをする。(ワークシート)</li> <li>14 振り返りを行う。無言で伝わるように、より適切な根拠とするために考えたことについて記述する。</li> <li>15 文章を読み合い、助言し合う。</li> <li>16 考えが伝わりやすいように、根拠を更に文章の改善点等について考える。</li> <li>17 振り返りを行う。无言で伝わるように、より適切な根拠とするために考えたことについて記述する。</li> </ul>

**協議の視点:** 生徒が「言葉による見方・考え方」を動かしながら思考し、めあての達成に向かっていたか。

- ・生徒は互いの文章の根拠について、改善点だけでなく良い点についても話し合うことができていた。
- ・ワークシートについて、生徒の思考を見とることができものに改善されており参考になった。
- ・ICTの活用について、自校でもチャレンジしてみたい。
- ・意見と根拠のつながりの検討が不十分であった。何について思考するのか、めあての工夫や指導者による軌道修正が必要であった。

教材研究会までは、「生徒がつまづかないように、活動がスムーズに進むように」と考えて授業づくりをしていましたが、スモールステップで活動させることがよいことなのかを考えさせられました。生徒の疑問を引き出し、生徒同士で解決させ、「わかった!」を引き出せる授業づくりをしていきたいです。



授業者  
片岡 れな 教諭

## ICTの活用

「書くこと」における事例

情報を収集して整理する場面

アンケート作成・集計結果を根拠としてあげる

インターネットでの情報検索

資料の設定、情報の収集、内容の検討

構成の検討

考えの形成、記述

推敲

共有

学習過程を往還

個別最適な学び

考えたことを表現・共有する場面

学習の見直しをもったり、学習した内容を蓄積したりする場面

めあてと振り返り

単元スタート時の文章

単元末の文章

学びの共有

学びの成長の実感

学びの蓄積(学習のポイントや書いた文章等)

## 学習過程を往還しながら考えを形成 個別最適な学び

- [書くこと]の学習過程を通して、必要に応じて生徒が即時また適時「情報の収集」を行うことができる。
- 情報収集の方法について、インターネットでの検索のみならず Google フォームでアンケートを作成し、集計データ等を意見文の根拠として挙げるなどがこれまでよりも容易にできる。
- 生徒が自分の思考に応じて学習過程を自由に往還し、考えを形成することができる。主体的な学習者の育成や個別最適な学びにつながる。

## 学びの共有 学びの成長の実感 学びの蓄積

- Google スプレッドシートで単元導入時と単元末の意見文、めあてと振り返りを継続して蓄積。互いの文章について助言し合ったり文章の良い点や改善点を共有し合ったりできる。また、自分の文章の変容から自分の学びを振り返り、学びの成長を実感できる。次の [書くこと]の単元でも既習内容を確認したり活用したりすることができる。

## リフレクションシートより

- ❖ 「書くこと」の指導の際、生徒への手立てを行っているつもりであったが、模範解答を示すような助言となっていたことに気付いた。生徒が試行錯誤しながら書く力を付けていくことができる授業づくりを行っていきたい。
- ❖ 授業では文章を書くことができるが、テスト等では課題が見られる状況に悩んでいたが、原因の一つにスモールステップ、モデル文の提示があるのではないかなということが分かったので改善していきたい。
- ❖ 適切な根拠、意見と根拠とのつながりについて改めて考えさせられた。ただ意見と根拠を並べるのではなく、意見に対してなぜその根拠が必要なのか自分なりの解釈を考えることができる授業づくりが大切だと感じた。

## お知らせ

### 第2回授業研究会(香南市立野市中学校)

日時: 令和4年12月13日(火) 13:10~

重点指導事項: 「読むこと」C(1)ア

学習材: 「言葉」をもつ鳥、シジュウカラ 『国語1』 光村図書

### 講師

東京女子体育大学  
田中 洋一 教授